

ペアトレと環境作り

第7回 脳にしみる叱り方3か条

こんにちは。
今回は、日常で多く見られる行為、
叱ることについて考えてみたいと思います。

叱り方にもいくつか **point** があります。
子どもの脳にマイナスとして残らない叱り方について
お話ししていきます。

第1条 状況をゆっくりみせる



叱る場面発見！

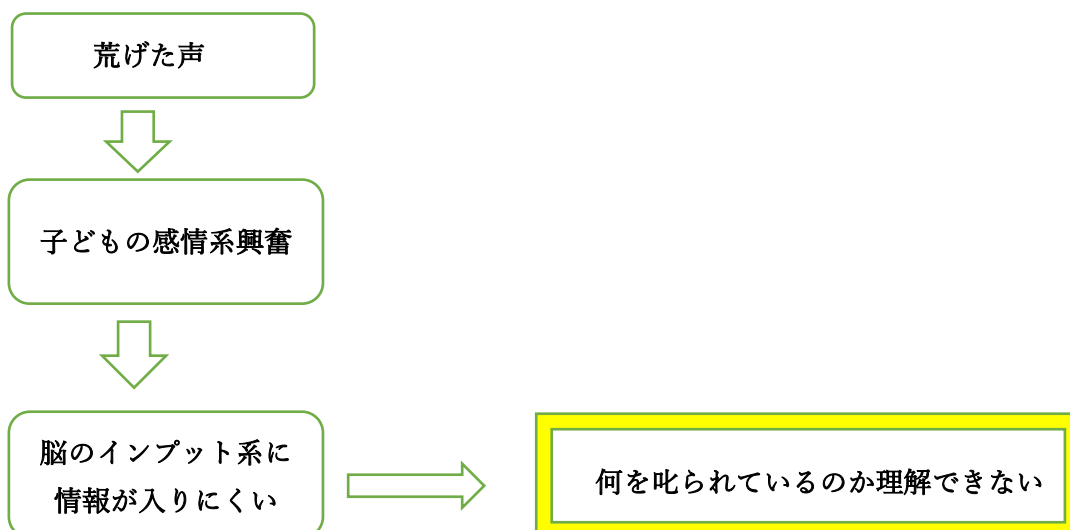
叱る場面発見！

《子ども》⇒今の状況を自分の目で確認させる

《大人》⇒できるだけ子どもを責め立てるような

荒げた声を使わない

☆荒げた声は子どもの感情系が興奮し、脳のインプット系に情報が入りにくくなる…



☆大きな声を使うのは子どもの注意をこちらに向ける時など最小限に！

叱ることもタイミングが重要!!

『その場で即座に』

状況把握させる＝記憶に残りやすい

第2条 結末を本人に言わせる

今の状況を子どもに気づかせたらそれを言葉で言わせませ

森子ども自身に言わせるのが POINT!

例) 部屋が散らかっていると状況を見せたあと

「どうなってる?」→「散らかってる」→「そうだね」

というやり取りが理想です

“Point“

- ・「ほら、言ってみなさい!」と責めるように詰め寄らない
- ・言葉にできるよう、うまく誘導する
- ・自分で見たことを言葉にする高度な脳の働きが必要なため
無理強いはしない

第3条 次の行動を考えさせる

最後に「じゃあ、どうしようか」

と、次の行動を子どもに問いかけます

適切な行動を答える



実行



大人が背中を押してあげる

森もし適切な行動が思いつかないようなら

2～3の選択肢から選ばせたり、

「～したらどう?」と提案しても OKです

☆大切なのは

不適切な行動をとったことを理解し、
それをどうすれば挽回できるかを学ぶこと!!

☆大人が一方的に言って聞かせて子どもが受け身になる叱り方よりも

子どもに考えさせる能動的な脳の使い方の方が、
脳に物事が定着しやすくなります

叱り方の point

- ① 叱ることは、子どもが正しい行動をして終わること。
- ② 叱ることは、対話を通じて成功する。
- ③ 短くコンパクトに話す。
- ④ 集中できる環境で叱る。
- ⑤ 心を叱らず、行動を叱る。

大人はどうしても感情的に叱ってしまうことのあると思いますが、
子どものよい面の行為・行動に繋げていくには
叱り方に工夫をしてみてください。

はじめは慣れず『苦』と感じてしまうかもしれませんが、
子どもと一緒にコントロールしていきましょう!!